

母校の発展に貢献を

関東古高会

総会・懇親会に110人

関東在住の古仁屋高校卒業生らでつくる関東古高会(福田厚己会長)の第62回総会・懇親会が11月24日、東京都千代田区の主婦会館ブラザエフであった。関東地区で暮らす同窓生ら約110人が参加。役員改選を行ったほか、歌や踊りで交流を深めながら母校と故



郷の発展を願った。福田会長はいさつで、「会長を務めた7年間で母校を訪問したほか、東京で『地域みらい留学生』の説明会を開いて島外からの学生勧誘活動にも協力させていただいた。新役員は若い方が多く、新しい関東古高会にな

る」と期待。新会長の原稔二さんは「会員減少で存続の危機にもなっている。知人・友人を誘ってもらい、また2世、3世と参加していただけるような同窓会にしたい」と意気込みを述べた。

瀬戸内町からは鎌田愛人町長や古仁屋高校の米澤瑞代校長が出席。鎌田町長は「地域みらい留学生制度では、卒業生が町に帰ってきて就職している。ふるさと納税などで寮が整備できたなどと、町発展への卒業生らの貢献に感謝した。

懇親会ではゲスト出演した東北奄美会の里恵会長や、9月に都内であった「奄美島うたのど自慢大会」の出演者らによる歌謡曲、永井しずのさんの島唄「よいすら節」、山下あすかさんのフラダンスなどが披露され会場を盛り上げた。

出身者のほか、瀬戸内町からも来賓が出席して交流を深めた関東古高会の総会・懇親会。11月24日、東京都千代田区